

平成5年度第1回医学用原子分子・原子核データWG会合議事録(案)

1. 日時: 平成5年7月19日(月) 13:30 - 17:30
2. 場所: 原研本部第1会議室
3. 出席者: 平岡武, 岩波茂, 上原周三, 尾川浩一, 喜多尾憲助, 古林徹, 白貝彰宏, 高田信久, 高橋巨, 原田康雄, 山口恭弘
菊池康之(原研核データセンター), 中井洋太(レーザ組合)
(欠席者: 伊藤彬, 兵藤一行)

4. 配布資料(資料提供者)

- 4.1 平成4年度第3回会合議事録(案)
- 4.2 核医学におけるアイソトープ利用(尾川)
- 4.3 JAERI-memo 57-041 医学用核データ・原子分子データに関するアンケート調査報告書(喜多尾)
- 4.4 National Nuclear Data Needs of the 1990's(喜多尾)
- 4.5 日本医学物理学会第3回研究発表会抄録(II)(白貝)[非所有者]

5. 議題

- 5.1 Σ 委員会の旅費削減について(菊池)
 Σ 委員会の各WGの旅費が従来の1/3になった経緯と数年はこの状況が続く見通しであるとの説明があった。これについて平岡委員長から今年度もう一度委員会を開きたいとの意向が示された。
- 5.2 光子・中性子照射における臓器線量(山口)
臓器線量を、姿勢、体格(年齢)の違いを考慮して計算できるプログラムを製作した。このプログラムを用いて、実効線量当量(H_E)と実効線量(E)の違い、実効線量の年齢による違いなどの、光子と中性子のエネルギーによる変化を計算した。
- 5.3 放射性医薬品データ報告(尾川)
資料4.2を参考に、医療関係でのアイソトープ使用量、件数、薬品の種類、応用目的、 γ 線検出器などについての説明がなされた。
病院以外での検査に使用されているRIも多くあること、保険で認められていないRIは研究も抑制される面があること、薬品としての体内での特性に関する知見が重要であるとのコメントがだされた。
- 5.4 アンケート結果(喜多尾)
資料4.3について、アンケートを取るに至った経緯、アンケート集計結果、本WG発足とのかかわりについて説明があった。
資料4.4のレポートが出た背景などについて菊池氏から説明があった。

6. その他

- 6.1 次回の話題提供は高橋委員(重イオンのエネルギー損失)。日時は未定。

平成5年度第2回医学用原子分子・原子核データWG会合議事録(案)

1. 日時：平成6年3月14日(月) 13:30 - 17:00
2. 場所：明宏ビル3階会議室
3. 出席者：平岡武，岩波茂，上原周三，尾川浩一，喜多尾憲助，古林徹，
白貝彰宏，高田信久，高橋旦，原田康雄，山口恭弘
(欠席者：伊藤彬，兵藤一行)
4. 配布資料(資料提供者)
 - 4.1 平成5年度第1回会合議事録(案)
 - 4.2 重イオンの阻止能について(高橋)
 - 4.3 核医学における核データ(尾川)
5. 議題
 - 5.1 重イオンの阻止能について(高橋)

Benton, Ziegler, Kanai, などによる理論式を中心に、補正項の違い、計算結果の比較などについて説明があった。Northcliffeの式は他と一致しないこと、カットオフエネルギーによって、~~LET~~値が大きく異なることなどが指摘された。
LET
 - 5.2 核医学における核データ(尾川)

資料(4.3)は、前回の委員会の資料(4.2)に加筆したもので、診断や治療に使用されるRIの核種、使用数量、件数などの変化について説明があった。

本件を出版する場合、タイトルを検討すること、線源のコンタミに関するデータが在れば載せた方が良い、との提案があった。
 - 5.3 その他
 1. 核データ委員会において、医学関係からの核データのニーズが少ないとの指摘があった。(岩波)
 2. 資料(4.3)は、他に資料が2編ほどまとまった段階で、M-レポートとして出版する。他の資料としては、高橋委員による資料(4.2)と上原委員による平成4年度第1回委員会の資料(4.2)(電子の飛跡構造計算コード比較表)を候補とする。
 3. 表や図を引用してM-レポートに出版する時の、著作権の問題が議論された。
 4. 平成6年度も旅費が少ないため、遠方からの委員は、委員としての出席回数を減らし、オブザーバーとして出席していただくよう、運営委員会から要請があった。(平岡)
 5. 次回の議題は岩波委員にお願いすることになった。